

Alert 反天皇制運動 26号

[通巻 408 号]
2018 年
8 月 7 日発行

第 26 期・反天皇制運動連絡会

今月の Alert

●「生産性」が国家によって篡奪された状況をはねかえすために——*2

反天ジャーナル ●——核女、怒鰐、必勝法は勝つまでやめない*3

状況批評 ●朝鮮半島情勢をどのように見るか
——東アジアの平和と非核化への好機——湯浅一郎*4

ネットワーク ●連続講座「安倍改憲と憲法 9 条」で共に議論を！——白川真澄*7
●米軍・自衛隊参加の総合防災訓練に反対しよう！——藤田五郎*8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく(99)

●オウム真理教幹部一三人の一斉処刑について——太田昌国*9

マスコミじかけの天皇制(25)

●「元号」・オリンピック・オウム大量死刑執行と「平成代替わり」の政治
——「壊憲天皇明仁」その 23——天野恵一*10

野次馬日誌*11 集会の真相*14 学習会報告*17

反天日誌*17 集会情報*17

101 歳の日高六郎さんが亡くなったと連絡を受けた時、98 歳で亡くなった、まだそれから 1 年もたっていないはずの福富節男さんのことも想い出した。私は日高さんと日常的に親しく交流したことはまったくなかった。1987 年、沖縄読谷村の国体ソフトボール会場で「日の丸」を燃やして抗議した知花昌一さんの救援会づくりのための最初の大きな集まり（私はこの救援会活動には結果的に長くコミットし続けることになったのだが）、この東京での集まりに、突然参加した彼が、右翼の「世代を結ぶ平和の像」破壊抗議の内容も織り込んだ活動を、と強く提案していた。この時がナマの日高さんにはじめて会った時であったはずだ。

親しく個人的に話を持ったのは 2 回だけ。1 回は、社会党が九条平和主義から大きく後退し政権に近づいていく時代に、岩波書店の『世界』にうまれた、その流れに乗った「平和基本法」構想なるものに批判の講演会に来て話していただいた時（1993 年）であり、もう一度は、私が長く参加している「戦後研究会」のメンバーとつくった日高さんの話を聞く集まりの時である。フランスに住んでいた日高さんとの仲介役は、2 度とも福富さんだったのである。その時の福富さんは仲介役を超えて、すごぶる積極的に動きまわった。シャシャリ出ることの少ない福富さんの普段にはおめにかかれぬハシャギぶりは、おそらく大知識人日高さんが福富さんが最も敬愛する人物であろうことをよく示していた。当時、それが私には少し意外であった。

今年（2018 年）は、学生叛乱のピーク（1968 年）から 50 年である。日高さんの発言で、一番強く私の心に残っているのは、1969 年 1 月の東大への機動隊導入の時辞職を決意した彼と、「わが解体」のプロセスを公表しつつ京大を辞職した高橋和巳との 1970 年（『群像』10 月号）の対談（「解体と創造」）であり、その中でも言及されている『朝日ジャーナル』（1970 年 8 月 9 日・16 日合併号）に書かれた「断章・私と大学」である。今、それを読みなおしてみても、他者攻撃性を削ぎ落とした、見事なまでに論理的かつ具体的、明快な自己断罪の主張の力にまた圧倒された。考えてみれば、不当解雇された教員として日大全共闘への加担を持続した福富さんの日高さんへの敬愛の深さは、まったくあたりまえの話であったのだ。（天野恵一）



250 円

●定期購読をお願いします（送料共年間 4000 円）

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

●最新情報はこちら ▶ <http://www.ten-no.net/>

今月の
Alert

「生産性」が国家によって篡奪された状況をはねかえすために



安倍晋三じきじきの抜擢により稲田朋美に続くかたちで衆議院議員の席を得た杉田水脈は、「(LGBT)の彼女らは子供を作らない、つまり『生産性』がない」「そこに税金を投入することが果たしていいのかどうか」などと、優生思想を露骨に表現している文章を「新潮45」八月号に掲載した。杉田はこれまでも、日本軍性奴隷制「慰安婦」問題をはじめとして、なでしこアクションや在特会などの極右排外主義グループと行動を一つにして、差別発言を繰り返してきている。杉田は「日本維新の会」や「次世代の党」「日本のこころ」など政党を転々とさせながら、こうした思想を国会やテレビ、インターネット上で繰り広げてきたことを安倍に評価され、いわば安倍ら極右勢力の思想の宣伝担当としての役割を担ってきたのだ。杉田は、女性差別はないとし、「日本文化と伝統」なるものを強調しつつ、ジェンダーフリーへの悪罵を通じて男女平等という基本的人権の根幹までも否定する発言を重ねてきており、今回のLGBTに向けてられた否定もまたこれらの発言と同様で、それは日本会議系の連中とも共通する一貫したものだ。これに対し、いままでも安倍自身やその周辺、自民党議員らがどれほど悪質な行動や発言を重ねても「閣議決定」などで問題なしとしてきた自民党が、驚いたことにウェブサイトで「本人には今後、十分に注意するよう指導した」としている。もちろんこれは安倍の総裁三選が確定する

まで、他にも多数存在し愚かで攻撃的な言動を重ねる「安倍チルドレン」、すなわち安倍の思想的子どもたちの口を一時的に封じるための弥縫策にすぎないのは明らかだが。「国家にとって利用価値があるかどうか」というおぞましい「基準」で優生保護法に基づく「断種」までもがなされてきた、日本国家の伏せられてきた暗部が、このかん積み重ねられてきたはずの基本的人権の確立が、実際には大きく損なわれ揺らいでいるということが、このような右派勢力の動きからくつきりと見える。

そしてそれを肯定する底流は、典型的な極右にのみ限られたことではない。東京医大の入学試験において、女性の受験者の得点が一律に削られ、男女の入学者の比率が操作されてきたという事実が明らかになったが、ネット上の情報を見ていくと、それは以前から他の学校でもあったこと、というものが多数あり、そのことは「意外なこと」とは感じられていない。そして、自身のこれまでの記憶をふりかえっても、これらは、もちろん否定しながらも「ありそうなこと」として、無意識のうちに脱色されているように感じる。

じつは、子どもを作ったり育てたりすることは、医大、医者ばかりではなく産業界、さらに社会の広い範囲において否定され続けているわけだ。そして、多くの女性にとつては職業や未来も収奪されてきているわけ

だ。子どもを作らないことが否定され、子育てによる休暇すらもマイナスとして否定され、年齢や障がいなどで「利用価値」がないと見なされれば、石原慎太郎や植松聖に類する連中らによって、まさに、生や存在そのものも否定されるというのがこの社会の行き着くところとなっている。さらに、ひとの生を「生産性」などという概念を通じて認識することから、わたし(たち)自身すら遠くないところにいる。そのことこそが、この問題から剔抉されねばならない。

そしてもちろん天皇制は、危ういながら「男子相続」の血統主義に基づいており、来年には大がかりな代替わりの儀式がなされる予定で、その「皇位継承式典事務局」も発足している。明仁と美智子は、その最後の「巡幸」を、明治政府が最初にその「領土」とした北海道とした。そして、今年の「全国戦没者追悼式」も、明仁の天皇として最後のものとなる。しかし、こうした差別の構造、いま眼前にある冷え冷えとした現実に向き合うとき、天皇および天皇制による「慰撫」「慰霊」「追悼」など、なんの意味も持たないことはあまりにも明らかだ。

今年も私たちは8・15行動を「『明治一五〇年』天皇制と近代植民地主義を考える8・15行動」として取り組むが、その行動は、より積極的に、奪われ続けている存在を、世界と自由を取り戻していくものとしていきたい。

(蝙蝠)

アメリカの原爆神話と情報操作

原爆神話①原爆は民間人の犠牲を避けるため事前に警告をして軍事基地を破壊し②あつという間に日本を降伏させた③戦争を早期に終結させた結果、予想された一〇〇万人ものアメリカ人の命、さらに多くの日本人の命も救った救世主だ④アメリカは神に託されて慈悲深い行いをした⑤原爆の放射性物質は熱と爆破に変わっているので、ほとんど影響はない。

日本人がアメリカ人と話をしている一番面食らうのは原爆のこと。いまなお、米国の教育現場では「原爆神話」が教えられており、多くのアメリカ人が原爆投下は戦争を終わらせ、多くの米兵の命を救った、よいことであつた、と信じている。

井上泰浩さんの表題の著作（朝日選書、二〇一八年六月）の副題は「広島」を歪めたNYタイムズ記者とハーヴァード学長。原爆神話の捏造者二人に焦点を当てて、彼らが米政府軍部といかに結託して神話を作り上げたかを解明した著作である。

最終章は神話の解体。①警告をせず無傷の都市の破壊規模を測定、②日本が降伏をしたのはソヴィエトの参戦の衝撃が大きかった、③百万人の米兵を救ったというのは誇張で、原爆犠牲者の数より大きくする必要があり、米軍公式見解でも二万人、④神の名において原爆投下を正当化するのには選民意識、⑤原爆の放射能の影響は開発責任者、と公式文書が認めていた。

原爆投下は戦争犯罪。世界は核禁止へ！（核女）

殺すな！

これから「人を殺す」という認識が、七名もの死刑執行の命令を下した時に上川陽子法務大臣にあつたかどうかはわからない。

それにしても自分の命令で七名もの命が絶たれるという前日に宴会に参加し、笑顔で写真に収まる心理は理解しがたい。

この七月六日に続き二六日には六名も執行され、オウム事件死刑確定者一三名全ての死刑が三週間という短期間で強行された。再審請求中や心神喪失状態であれ「絶対に殺す」という躊躇のなさに愕然とする。

——平成の事件は平成のうちに終える——というのが法務・検察内部での共通認識という。一三人の命が天皇の時間によって区切りをつけられ殺されたならば、その区切りによつた根拠と正当性があるのか。

死刑廃止が国際社会の常識となるなか、「ナチスの手口をまねる」と公然と語る大臣が居座り続けられる安倍内閣のファシズム性をここにも見るることができる。

（怒鰐）

賭博における菊と星条旗

七月二〇日、カジノを合法化するIR実施法が成立した。トランプの有力パトロンであるカジノ王・アデルソンの日本進出を導くものであることは明白だ。立憲民主党の枝野が「米国カジノ業者が子会社をつくり運営し、日本人がギャンブルで損した金を米国に貢ぐ。国を売る話だ」と批判したのはもっともで、白井聡が言うところの「米国従属の自己目的化」の極みである。

一昨年のIR整備推進法の審議の過程では、共産党の議員が「賭博禁止は持統天皇のすくろく禁止令（六八九年）に始まる。近代法としては明治天皇のときに刑法で禁止した」と天皇を持ち出して反対論を展開した。しかし、天皇が賭博に抑制的かということ、もちろんそうではない。持統はともかく明治天皇は、居留地で英国人が経営していた根岸競馬場に足繁く通って、条約改正で居留地でなくなった後もギャンブル事業としての競馬の継続に尽力した（天皇賞の起源もこのころから）。

もっともその後の天皇は、競馬への関心は薄く、いわゆる「天覧競馬」が行われたのは、明仁による二〇〇五年一〇月の秋の天皇賞が最初となる（その後一二年に二回目）。翌月に娘の清子の結婚式を控えたこの時の勝ち馬は、ヘブンリーロマンス。ちなみに、明仁は皇太子時代の八六年にも天皇賞を観戦しているが、この時の勝ち馬はニッポーテイオー、二着はレジエントテイオーだった。

（必勝法は勝つまでやめない）

状況批評

思想・状況・批評

朝鮮半島情勢をどのように見るか

——北東アジアの平和と非核化への好機——

湯浅一郎（ピースデポ共同代表）

二〇一七年、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の核・ミサイル開発の飛躍的な技術的進展、軍備拡張を主張する米トランプ政権の登場が相まって、かつてなく軍事的緊張が高まっていた。日本では、北朝鮮が核・ミサイル開発を進める背景が何かという視点が全くないまま、一方的に北朝鮮を悪者扱いする風潮が社会を覆っていた。朝鮮半島が南北に分断されたままであることの意味を理解せず、朝鮮戦争は終わっておらず、停戦協定でしかなく、北朝鮮がいつ攻撃され、一方的につぶされるかもしれないという脅迫感があるという状況は無視されていたのである。

しかし韓国の文政権の誕生で、ピョンチャン（平昌）五輪への北朝鮮参加を契機にその構図から抜け出す道が動き出した。今、北東アジアの平和と非核化が大きく前進する環境が生まれている。このチャンスを活かせるかどうかは、北東アジアの平和と非核化という地域的な懸案の前進のみならず、グローバルな非核化や平和にとっても大きな意味を有している。

一、北東アジアの平和と非核化構築の基礎となる二つの首脳宣言

四月二七日、板門店において南北首脳会談が行われ、三八度線を挟んで両首脳が握手をかわした。六五年にもわたり継続した南北分断が、ようやく無くなっていくことを象徴する感動的な場面であった。朝鮮戦争を終わらせることができれば、欧州で一九九〇年頃起きた米ソ冷戦の終結が、ようやく北東アジアにおいても具体化することになる。

そして、あげられた「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」は、冒頭で「両首脳は、朝鮮半島でこれ以上戦争はなく、新たな平和の時代が開かれたことを八〇〇〇万のわが民族と全世界に厳粛に宣言する」と

した。朝鮮半島に生きる南北がこのように宣言したことこそ、今回の南北首脳会談の最大の成果であり、意義である。

共同宣言には、三つのことが明記された。

①南と北は南北関係の全面的で、画期的な改善と発展を遂げることで、断たれた民族の血脈をつなぎ、共同繁栄と自主統一の未来を前倒ししていく。
②南と北は朝鮮半島で先鋭な軍事的緊張状態を緩和し、戦争の危険を実質的に解消するため、共同で努力していく。

③南と北は朝鮮半島の恒久的で、強固な平和体制の構築のために積極的に協力していく。朝鮮半島で非正常的な現在の休戦状態を終息させ、しっかりとした平和体制を樹立することは、これ以上先送りできない歴史的課題である。

合意③は、「南と北は、休戦協定締結六五年となる今年、終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換し、恒久的で強固な平和体制構築のため、南北と米国の三者、または南北と米国、中国の四者会談の開催を積極的に推進していく」とした。そして、「完全な非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現するという共同の目標を確認した」とする。

南北首脳会談の最大の意義は、当事者である二国が、共に暮らす朝鮮半島を戦場にさせないということ、朝鮮戦争の終結に向け共同で取り組むことに合意し、それを前提として「朝鮮半島の非核化」を共通の目標として確認したことである。

しかし、そもそも南北だけでできることには限りがある。板門店宣言の特徴の一つは、当事者である二国が、朝鮮戦争の終結や、「完全なる非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現する」等、二国だけではできないこ

とを共同の目標として確認し、その実現へ向け「南北で協力する」としたことであるが、米国の関与がなければ、ほとんど前進しない。

その意味で、米朝首脳会談の行方が注目され、一旦は中止ということになったが、六月一二日、トランプ大統領と金正恩北朝鮮国務委員長は、シンガポールにおいて史上初の米朝首脳会談を行い、共同声明を発売した意義は計り知れない。声明は、両首脳が「新たな米朝関係確立と、朝鮮半島における永続的で強固な平和体制構築に関連する問題をめぐり、包括的に掘り下げた、そして真摯な意見交換」を行い、「トランプ大統領は朝鮮に安全の保証を提供することを誓約し、金正恩委員長は朝鮮半島の完全な非核化に取り組む断固とした揺るぎない決意を再確認した」とし、以下の四項目を確認した。

- ① 双方の国民の平和と繁栄を希求する意思に基づき、新しい米朝関係を構築することを約束する。
- ② 米朝両国は、朝鮮半島の永続的かつ安定的な平和体制の構築に共同で努力する。
- ③ 「板門店（パンムンジヨム）宣言」を再確認し、北朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化に向け努力することを約束する。
- ④ 既に身元が確認された人を含め、戦争捕虜や行方不明者の遺骨回収に努める。

北朝鮮の建国から七〇年、銃口を向けあい、共に対立してきた米朝の首脳が歴史上初めて会談し、包括的な目標に合意した意義は歴史的である。

その後の米朝協議は、朝鮮戦争の終戦宣言をめぐる意見が合わないなど必ずしもスムーズではない。しかし、停戦協定締結六五年周年の七月二七日、朝鮮戦争時の米兵の遺骨五五柱を載せた米輸送機が北朝鮮から在韓米軍烏山（オサン）空軍基地に到着した。他に一五〇柱が保管されているが、五〇〇柱以上が見つかっていない。米朝共同声明の合意の一つの履行が具体的に始まったことになり、米ホワイトハウスのサンダース報道官は、「金正恩委員長は、大統領との約束の一部を果たした」と評価した。これらの経過からは、六・一二共同声明の下で米朝協議を進めていくこと

自体に赤信号がともったわけではない。

二、流れを変えたのは韓国民衆の闘い

ここに至る経緯を振り返っておこう。二〇一七年五月一〇日、韓国に市民が選んだ文政権が登場した。直後の七月、文大統領はベルリンで演説し、包括的な「新朝鮮半島平和ビジョン」を提案する。九月、国連総会演説で文大統領は、北朝鮮の核問題の根本的解決には、「多国間主義に基づいた対話を通じて世界平和を実現しようとする国連の精神が最も切実に求められている」とした上で、「北朝鮮の平昌（ピョンチャン）オリンピックへの参加を心から歓迎」とすると呼びかけた。

この時、六回目の核実験や弾道ミサイル発射が繰り返されることを念頭に、演説の中で、トランプ大統領は、金正恩を「ロケットマン」と揶揄し、「米国とその同盟国を守らなければならないときは、北朝鮮を完全に破壊する選択しかない」と述べ、安倍首相は「対話とは、北朝鮮にとって、我々を欺き、時間を稼ぐため、むしろ最良の手段だった」、北朝鮮の非核化のために「必要なのは、対話ではない。圧力」なのだと述べている。こうした中で、文大統領の演説は、最も本質を突き、建設的な提案であった。

そして一八年一月一日、金正恩 DPRK 国務委員長が、年頭演説で平昌オリンピックへの参加の意思を表明し、南北間の軍事的緊張を緩和し、朝鮮半島の平和な環境を整えようと提案する。その後、首脳特使の相互派遣を通じて、三月六日には、板門店での南北首脳会談の開催、首脳間のホットライン設置などに合意する。金正恩の米朝首脳会談の提案は、訪米した韓国特使を通じてトランプ大統領に伝えられ、トランプ大統領は三月八日受託を即答した。こうして、四月二七日の南北首脳会談、五月七、八日、中朝首脳会談、五月九日、日中韓首脳会談などを経て六月一二日の史上初の米朝首脳会談と首脳会談が続いたのである。

こう見てみると、緊張と対立の局面を対話と和解へと転換させたのは、文政権であることが分かる。そして、一七年九月の国連総会演説で、文大統領が、「戦争を経験した世界唯一の分断国家の大統領の私にとって平和

は人生の使命であり歴史的な責務です。私はロウソク革命を通して戦争と紛争の絶えない世の中に平和のメッセージを送ったわが国民を代表しています」と述べたように、文政権は、韓国民衆の闘いが産み出したものである。とすれば、流れを変えた原動力は、韓国民衆の闘いにあるといっている。これは、民衆の声が状況を動かしていくことを実証する画期的な経験である。

三、今こそ北東アジア非核兵器地帯の設立を求める世論を

朝鮮半島の非核化を含む北東アジアにおける平和と安全保障環境が大きく変わろうとしている新たな画期的状況において、市民社会に求められることは何か。

米朝共同声明と南北板門店宣言によって、朝鮮半島の完全な非核化への努力が始まっているが、これは必然的に北東アジア非核兵器地帯の設立への新たな局面を産み出している。「朝鮮半島の完全な非核化」には二つの要素がある。第一は、北朝鮮の「完全、かつ検証可能で不可逆的な非核化（CVID）」である。第二は、米国の「核の傘」に安全保障を依存する韓国の政策も同じようにCVIDが実現された状態にすることである。韓国の「核の傘」は北朝鮮に対してのみならず、中国とロシアに対してにも必要とされていた。したがって、韓国は北の核からの安全のみならず、中国とロシアの核からの安全の保証を必要とする。これを国際条約として実現するためには、朝鮮半島の南北二か国が非核兵器地帯となり、米中ロが消極的安全保証を約束して、五か国で「朝鮮半島非核兵器地帯」をつくるということになる。二つの宣言で合意したことを履行すれば、このような目標に向かって協議が進むことになる。

ところが、北朝鮮に対する米国による安全の保証と在韓米軍の非核化の検証は、在日米軍を含めての安全の保証と非核化の検証に発展せざるをえない。従って五か国での「朝鮮半島非核兵器地帯」を設立する取り組みは、在日米軍の存在によって、それだけで閉じることのできない問題に直面する。現状のままであれば、北朝鮮にとって在日米軍による核の脅威から自

由になることはできない。つまり、日本を抜きにした五か国による朝鮮半島非核兵器地帯は不十分であり不安定であり続ける。その意味で、日本政府が積極的に名乗り出て、日本を含む六か国の北東アジア非核兵器地帯の形成を提唱することが、大きな意味を持つことになる。それは、日本の核武装への懸念を払しょくすることにもなる。

日本政府を動かすためには、北東アジア非核兵器地帯の設立を訴える日本の世論を強めるという王道以外にはないであろう。これまで、ピースデポは、二〇年以上にわたり北東アジア非核兵器地帯について、スリー・プラス・スリー構想を提案し続け、日韓の市民団体の協力、日韓国会議員との連携、日本の自治体首長への働きかけ、日本の宗教指導者への働きかけなどの取りくみを進めてきた。今こそ、その蓄積を基礎に、より大きな世論形成を進めてゆきたい。

さらに言えば、日本政府は、この機会を新しいアジア外交の起点と位置付け積極的に取り組むべきである。その際、日朝関係改善の基礎として依拠すべき第一は「日朝平壤宣言」（二〇〇二年九月一七日）である。第二は「北朝鮮及び日本国は、平壤宣言に従って、不幸な過去および懸案事項を解決することを基礎として、関係を正常化するための措置を取る」と合意した六か国協議の九・一九声明である。政府に求められることは、現在の機会は、日本が必ず解決せねばならない北朝鮮との「戦後処理」、「従軍慰安婦」問題を初め、関係正常化への好機ととらえ、これらに真摯に対処する姿勢を示さねばならない。一九一〇年の韓国併合から始まった植民地政策に伴う加害の歴史に関し、韓国や中国には一定の清算をしているが、北朝鮮に対しても責任の有る対処をすべきであり、その上で国交正常化をめざしてほしい。拉致問題の解決も重要な懸案の一つであるが、政府は、核・ミサイル、拉致問題に限定するのではなく、より根本的、包括的な取り組みへの強い姿勢を求めたい。

連続講座「安倍改憲と憲法9条」で共に議論を！

白川真澄（ピープルズ・プラン研究所）

この講座（主催…ピープルズ・プラン研究所、協力…反安保実行委員会）では、安倍改憲に対抗する議論をどのような切り口や地平で組み立てようとするのか。問題意識を述べたい。

東アジアの歴史的な大変動のなかに憲法議論を置き直す

六月一二日の米朝首脳会談は、東アジアの平和に関わる情勢全体を大きく変える出来事になった。一九五〇年の朝鮮戦争開始以来の米朝間の敵対関係に終止符が打たれ、朝鮮半島の非核化への交渉が始まり、米韓合同軍事演習の中止が決まった。今後の紆余曲折が予想されるとはいえ、東北アジアの軍事的緊張が緩和され、東アジアに残されてきた冷戦構造をなくしていく重要な一歩が踏み出されたのである。

この出来事は今後、在韓米軍の縮小・撤退の可能性から在日米軍の駐留や基地の役割、日米安保の存在の再検討といった動きにつながっていくだろう。朝鮮半島の緊張緩和の流れは、安倍による9条改憲の正当性を根底から失わせる。なぜなら、安倍は、北朝鮮の核・ミサイル開発に象徴される東アジアの軍事的緊張の高まりを、9条改憲の最大の根拠としてきたからである。

しかし、安倍は、中国の海洋進出が続くことを理由に9条改憲と日米安保の強化を言い立てるだろう。また、米国のコミットメントが後退する分

だけ、日本自身の軍事力、自衛隊を強化すべきだという世論も強まるだろう。

したがって、憲法をめぐる議論も、東アジア情勢の大転換という新しい地平に置き直すことが求められる。九条改憲論は、中国との対決を強化し日米安保を維持しながら自衛隊の役割を強化するという立場から主張されるだろう。これに対して、九条を擁護する議論は、非武装国家の実現のリアリティを日米安保の解消と東北アジアの非核化・非軍事化のプロセスの一環として提示しなければならない。

自衛隊の存在を認める反「安倍改憲」論

安倍は昨年の五月以降、9条の第1・2項を変えずに自衛隊の存在を明記した第3項を追加するという改憲案を提案してきた。いまのところ、この安倍改憲案への支持は多数になっていない。権力を私物化しウソをつく首相（森友・加計問題の元凶）が提案しているから支持できない、という理由も大きい。しかし、「護憲派に揺さぶりをかけ」（伊藤哲夫）、9条改憲反対論を分断するという邪悪な狙いは、侮れない。

問題は、この安倍改憲論に反対する人びとのなかで、自衛権や自衛隊の存在を認めてその役割を専守防衛＝個別的自衛権の行使に限定することを9条に明記すべきという言説が広がっていること

だ。「新9条」論（伊勢崎賢治、今井一ら）、「改憲的護憲」論（松竹伸幸）、「立憲的改憲」論（山尾志桜里）が、そうである。これらの言説は、現在の9条が政府による集団的自衛権の行使に歯止めをかける力をはや失っている、したがって政府をより厳しく縛る条文に変えるべきだと主張する。

そこには論理的な飛躍や政治的リアリティの欠落があるが、最大の問題は、国民の多数派が集団的自衛権の行使には反対だが自衛隊の存在や個別的自衛権の行使（専守防衛）を認めている、という現状を論拠にしていることにある。現在の多数派の意見をそのまま憲法に書き込んでよいのか、という立憲主義の原則に関わる疑問もある。しかし、非武装・自衛戦争の否認という9条の原理に立つ私たちも、この多数派の現状を直視しなければならない。言いかえると、現在の自衛隊をどうするべきか、という問いに説得力ある構想を打ち出して、多数派の現在の常識に（追従ではなく）切り込んでいくことが問われる。

六月二三日に開かれた「第0回」では、「憲法9条をめぐる最新議論」として「改憲的護憲」論（報告…天野恵二）、「新9条」論（同…有馬保彦）、「改憲的立憲」論（同…白川）を取り上げ、その問題点を批判すると同時に、私たちに問われている課題を論じた。

この講座は、偶数月の第四土曜日の13…30…17…00に、PP研を会場にして開催される。

第1回（八月二五日）は、「9条解釈の変遷の歴史」（報告…清水雅彦）、「日米安保と憲法」（報告…武藤一羊）をテーマにする。共に議論を。

なんざー NETWORK

米軍・自衛隊参加の総合防災訓練に反対しよう！

藤田五郎（米軍・自衛隊参加の総合防災訓練に反対する実行委2018）

東京都総合防災訓練に反対する闘いは二〇〇〇年の「ビッグレスキュー」反対闘争から始まった。この年、石原都知事は震災時に「三国人による騷擾」も想定されると自衛隊の治安出動も必要だという暴言を放った。「ビッグレスキュー」そのものもまた、自衛隊の凱旋ショー的要素が強く、石原暴言への抗議も併せて多くの人たちが反対行動に立ち上がった。それから一八年、露出こそ控えめになったものの、自衛隊（および米軍も一部）の関与は続いているし、昨年は、小池都知事が、関東大震災における朝鮮人虐殺追悼式へのメッセージを取り止め（石原でさえ毎年送っていた）、虐殺の事実についても「諸説ある」と許しがたい答弁を行った。さらに今年一月、東京では初めてのミサイル避難訓練が強行された。その後、南北、米朝会談の流れで当面は見合わせるようになったが、まさに防災の延長に有事があり、さらに都行政の最高責任者が、事実上レイシズムを容認し、差別と憎悪に満ちた「流言飛語」が蔓延している状況とあって、事態は一八年前当時よりはるかに深刻になっていると言わざるを得ない。

この間の防災訓練反対闘争は、年ごとに変わる訓練区域（今年は中央区、港区）に併せて実行委を結成し、前段集会、都の防災部との折衝、当日朝からの監視行動、デモか情宣、報告集会を取り

組んできた。その流れのなかで自衛隊に対する見方が明らかに変わってきたのは二〇一一年以降である。訓練会場は例年、自衛隊のブースが設けられ、さらに装甲車や偵察用バイクなどの展示、野戦用の調理車（数百人分のご飯やカレーを煮炊きできる）を使つての炊き出しが通例化しているが、特にこの年から、自衛隊が被災地でいかに活躍したかの宣伝が目立つ。また反戦・反基地運動に参加した人達からも、「災害時の自衛隊出動は認めるべき」「被災者も自衛隊に感謝している」という声すら上がるようになった。

しかし勘違いしてはならないのは、自衛隊はそもそもレスキュー部隊ではないし、そのための専門的訓練は受けていない。そしてここが肝腎なことだが、自衛隊は「有事」の緊急出動はできても、「災害時」の緊急出動はできない。調理車も医療・トリアージも基本は、戦闘時における負傷した兵士の治療や最前線での食事のためにあるのだ。近年ブースで目立ってきたのは、炊き出しなどのボランティアで動員された中・高生らに配布する自衛隊募集のパンフだ。中身は最新兵器と戦闘訓練（本来の任務）のオンパレードである。もう一つ、注目の（？）は昨年のメイン会場（多摩川）の場で「百合女子大 防犯・防災サポーターズ」と紹介された学生らがバケツリレーを披露。これは多くの大

学で警視庁の肝入りでつくられているとのことだ。

防災訓練への取り組みを通して、二〇〇五年以降毎年行われる国民保護計画に基づくテロ対策訓練への抗議・監視行動も呼びかけてきた。二〇二〇年のオリンピックに向けて頻繁に実施されるのは間違いない。有事訓練としては既にミサイル避難訓練が全国で実施された。これほど敵（北朝鮮）を明確にして、子どもたちに恐怖心を露骨に植え付けたやり方（戦時下の防空演習レベルの）はかつてなかったことだ。恐怖心は敵愾心に転化する。そこにネットウヨ的差別扇動と流言飛語が加わるとどうなるかは想像するまでもない。

今年の東京都総合防災訓練は中央区浜町やお台場などを中心に展開されるが、実行委としては九月一日の墨田区横網町公園（両国駅下車）で行われる日朝協会主催の関東大震災で虐殺された朝鮮人虐殺追悼式への参加も併せて呼びかけることになった（午前一〇時に公園結集、当日は前年同様、虐殺を否定し碑の撤去を呼びかける極右団体「そよかぜ」が独自の追悼式を強行しようとしている。そよかぜらによる妨害・嫌がらせを許さず、小池都知事の追悼メッセージを求めてゆく）。

七月二七日に行われた前段の集会（神保町区民館四〇名）では四人のパネラーが問題提起。「自衛隊は何をやっているのか」池田五律さん、「災害のセキユリティ」首藤久美子さん、「防災からオリンピック動員」渥美昌純さん、「災害とヘイト・レイシズム」加藤直樹さんと、防災訓練反対闘争という個別課題を越えた拡がりを創りだす上で不可欠の提起として共有された集会となった。九・一・二に多くの参加を！

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく99

オウム真理教幹部一三人の一斉処刑について



共謀罪法施行一周年の抗議集会で講演するため、豪雨の大阪へ向かう準備をしていた七月六日朝、オウム真理教幹部の死刑執行の第一報がラジオで流れた。執行後にしか情報が流れない通常の在り方とは異なる「事前情報」であることは、ニュースの言葉遣いから分かった。その後は新幹線の車中にいたために、次々となされる死刑執行の様子が、まるで実況中継のようになされたという一部テレビ報道は現認していないが、執行に立ち会うべき検察官が早朝から拘留所内へ入る姿が撮られている以上、法務省は積極的に事前情報を流したのだろう。テレビ・メディアの「効用」を

思うがままに利用したその意図を見極めなければならぬ。七人の死刑が執行されたことは車中のテロップで知った。残るオウムの死刑確定者は六人。彼らにとっては、これは「予告された殺人宣告」にひとしい作用としてはたらくだろうと思ひ、その残酷さに心が震えた。

七月二十六日、翌日に某所で行なう講演「オウム真理教幹部一斉処刑の背景を読む」の準備をしていた時に、第二次処刑のニュースが流れた。合計一三人の処刑。すぐに思い浮かべたのは、一九一一年一月の二四日と二五日のこと——前日には、「大逆事件」で幸徳秋水ら一人の、翌日に

は管野スガひとりの、計一二人の死刑が執行された史実だった。大量処刑を行なっても世論は反撃的には沸騰しない、と読んでいる安倍政権の「冷徹さ」が、際立つて透けて見えるように思えた。

無理にでも心を落ち着かせて、翌日の講演の準備を続けた。いくつかの資料に基づいて、オウムの関連年表を作ってみた。「オウム神仙の会」が設立され、松本智津夫が麻原彰晃と名乗り始めたのは一九八四年（「オウム真理教」と改称したのは一九八七年）だったが、松本サリン事件が一九九四年、地下鉄サリン事件は一九九五年——という形で年表を作ってみると、創設からわずかに一〇年前後で、オウム真理教は「極限」にまで上り詰めたことがわかる。無神論者の私にして、宗教がもつ始原的なエネルギーのすさまじさと思うほかはなかった。来世や浄土を信じる心が、市民社会に普遍的な「善悪の基準」に拘泥され得ないことは、理念的には、見え易い。だが、近代合理主義からすれば、神秘的なこと／常軌を逸したところへの信念を持つことが、これほどまでに短期間に、無差別殺戮を正当化する暴発に結びついたことには、心底、驚く。

修行中に異常を来した信者を水攻めにして死に至らしめ遺体を焼却した事件や、その事実を知

る信者が脱会を申し出たために殺害した事件は、一九八八年秋から八九年初頭に掛けてすでに起こっていたが、これはごく少数の幹部の裡に秘匿されていたために、長いこと外部に漏れることはなかった。だが、出家した子ども親たちが、高額の「お布施」や連絡の途絶に不審を抱いて、被害対策弁護団も結成された後の一九八九年八月に、東京都から宗教法人の認証を受けているなど、解明されるべきことは多々あることを、あらためて思い知る。八九年一月の坂本弁護士事件が、神奈川県警のサボタージュによって捜査の方向が捻じ曲げられたことは今までも触れてきた。その捜査の中心人物たる古賀光彦刑事部長（当時）がその後、愛知県警察本部長→警察大学学長→JR東海監査役という具合に、絵に描いたような「出世」と「天下り」のコースをたどっていることは、寒心に堪えない。安倍政権下で「功績」を挙げた官僚たちが歩む道は、いつの時代にも、敷き詰められているのだ。

その夜の講演で私は、「国家権力とたたかう」オウムが、省庁を設けて担当大臣や次官を任命し、他者を殺戮する兵器や毒ガス開発に全力を挙げたことを指して「国家ごっこ」と呼んだ。軍隊・警察を有する国家が独占している殺人の権限を自らも獲得しようとしたオウムは、悲劇的な形で「国家の真似事」を演じた。一宗教がたどった軌跡から私たちが取り出すべきは、宗教がもち得る危険性への視点だけではない。大量処刑も含めて「国家」が行なう所業への批判も導き出すことができるのだ。

(8月4日記)

ミ
の
天
皇
の
制
25

「元号」・オリンピック・オウム大量死刑執行と 「平成代替わり」の政治—— 〈壊憲天皇明仁〉 その23



七月二一日は、私たち「反天連」も呼びかけ団体の一つである「元号はいらない署名運動」主催の、来年五月一日の天皇代替わりとともに終わる「平成」これを最後に天皇による時間支配という反民主主義制度である「元号」制度を終わりにしようという呼びかけを發した「なぜ元号はいらないのか？」集会に参加。翌日二二日は、死者も出ている連日の猛暑のなか、「オリンピック災害」おことわり連絡会」主催の、原宿での路上集会とデモに参加。一つでも多くの「日の丸・君が代」というナショナリズム・イベント反対の声をあげた。「灼熱地獄の東京五輪、本当に死ぬぞ、いますぐやめろ！」のシュプレヒコールが、奇妙にリアルに響く、ハードな行動。病身のヨレヨレの体には、ひどくこたえフラフラ。

それでも七月二七日には「死刑執行に抗議する集会」に参加。前日の二六日にはオウム関係者の六名の死刑執行があり、すでに七月六日に七名が執行されていたので、再審請求中の人物を含めて、恩赦などによる死刑回避者ゼロのまま、一三名全員が死刑執行。「大逆事件」の一二名を超えるこの歴史的暴挙への怒りが、会場にあふれる集まりであった。集会の帰りぎわ、「反天連」の集会などによく顔を見る人物から、「反天皇制ガンバリ時ですね」と声をかけられた。

『東京新聞』（七月二〇日）の夕刊の文化欄で川

村湊が（七人死刑執行の意味）こう論じている。

「二〇二〇年の東京オリンピックを前にして、国内的なテロリズムへの対策は、まったく危うい段階だろう。過去のオウム真理教のテロに対する失敗（あえて失敗と呼ぶ）と、これからのテロに対する恐怖心、極度な警戒心が、今回の大量処刑を呼び込んだと思う」。

この大量処刑が二〇二〇年東京オリンピックをにらんで実行されたことは、まちがいあるまい。

もう一点、私たちは見落としてはいけない大問題がある。この大量処刑が、「平成代替わり（アキヒト天皇「生前退位」）の政治プロセスの中におきている意味である」。

かつて一九六四年東京オリンピックをトータルに批判した『につぼん診断』（日高六郎・佐藤毅編。三一新書、一九六八年）に、以下のような文章がある。

「宮さん宮さんお馬の前に／ヒラヒラするのは何じやいな／あれは、朝敵征伐せよとの／錦の御旗じや知らないか／トコトンヤレトシヤレナ」

これは明治維新のころ、国民の間でうたわれた『トシヤレナ節』の一節だが、ここには、近代から現代にいたる、わが国の政治的シンボル操作の原型がある。『錦の御旗』は目にみえる具体的な象徴として、『官軍』をまとめる力を生み、維新を推進させる原動力となっていた。いまでは明治維新と

は無関係な場所で『ニシキの御旗』という言葉が使われるようになっていた。／『オリンピックの東京開催が決まった』『やるからには成功させよう』『そのためには——』と展開されてきた論理も、オリンピック東京大会が、一九六四年の日本で、一種の政治的シンボル『ニシキの御旗』として使われたことを物語っている。オリンピックの名を高くかかげることによって、その目的にそったあらゆるものが正当化され、その目的にとつて邪魔なものはすべてしりぞけられるようなムードを生んだのである」（傍線引用者）。

今、日本の反対の声をすべてしりぞける「翼賛ムード」をつくり出している国策（錦の御旗）は、二〇二〇年東京オリンピックと二〇一九年「平成天皇代替わり」の二つである。このシンボルの操作の政治の必然が大量死刑執行を生み出したのである。新元号と新天皇が生まれる代替わり儀式の前に（「平成」の時間の中で）死刑は執行すべしという安倍政権らの意向については、マスコミでもチラホラ流れていた。

そして、私たちが想起すべきなのは、オウムは「何人といえども、その権威は侵してはならない」という「神聖法皇」をいただく「オウム憲法」を持っている、「皇居にサリンをまきかねない」反皇室団体と報じられていた事実である（正確にどうだったかは処刑によつて闇に葬られてしまったが）。

人権憲法を持つ国家による合法的な大量殺人（死刑）は、平成天皇Xデー政治プロセスの必然的な産物だったのである。

日本毎日新聞

7月1日～7月31日

【7月1日】

明仁◆皇居の清掃活動を担うボランティア「勤労奉仕団」と懇談したり、「私的」に外出したりしたと報道。

【歌会始】◆宮内庁が、翌年1月の歌会始の儀（題は「光」）の選者5人を発表。当年と同じ顔触れと報道。

元「慰安婦」◆旧日本軍の「従軍慰安婦」だった女性らを支援する「韓国挺身隊問題対策協議会」が、元「慰安婦」のキム・ボクトウクさんが亡くなったと明らかに。

当年に入り死去した元「慰安婦」は5人目で、韓国政府が認定する存命の元「慰安婦」は27人となったと報道。

【7月2日】

絢子婚約◆故高円宮の三女絢子と日本郵船社員の守谷慧＝東京都港区＝の婚約が内定。これに先立ち、絢子と母久子が皇居・御所を訪れ、美智子にあいさつ。明仁は体調不良のため同席せず、美智子が明仁の祝意を伝える。宮内庁の加地隆治・宮務主管が同庁で記者会見し、内定を発表。

絢子の活動を振り返り「数多くの公的な活動に取り組みられる中で多くの人々と親しく接し、役割を果たしてこられた」。2人の会見が同庁で開かれる。久子が「（2人は）相性がとてもいいように感じます」とする感想を発表。安倍晋三首相が政府与党連絡会議で、「国民と共に心からお祝いを申し上げます」。菅義偉・官房長官が

同様の内容の談話を発表。その後の記者

会見で、女性皇族の婚姻に伴う皇族減少への対応について「（解決の方策は）いろいろな意見があり、国民のコンセンサスを得るには十分な検討が必要だ」

明仁◆宮内庁が、明仁に早朝から脳貧血によるめまいや吐き気の症状があり、午前中に行われた故高円宮の三女絢子の婚約内定の報告には同席しなかったと発表。予定されている「公務」は後日に延期したと報道。

「慰安婦」報道◆元朝日新聞記者で「慰安婦」報道に関わった植村隆が、産経新聞に掲載された「ジャーナリスト」桜井よしこのコラムに誤りがあるとして、産経新聞社に訂正記事掲載を求めた東京簡裁での調停が不成立に。産経新聞の訂正記事の内容に、植村が納得できなかったと、植村の代理人弁護士が明らかに。

【7月3日】

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁に脳貧血によるめまいに加え、軽い腹痛の症状が出たため、2日に続いて当日も「公務」を延期すると発表。明仁は午前中御所で同庁総務課長による地方訪問の説明を聴く予定だったが、美智子が1人で受ける。昼、皇居・宮殿で法相や検事総長らと昼食を共にする「公務」が入っていたが延期し、午後の「執務」も4日以降にこなすという報道。

【7月4日】

美智子◆横浜市内のホテルを訪れ、女性の地位向上に取り組む国際団体「ゾンタ」が開催した世界大会のレセプションに出席。

明仁、美智子、徳仁、秋篠宮、紀子◆宮内庁が、体調を崩していた明仁のめまいの症状などが改善傾向にあると発表。明仁が皇居・御所で静養。御所での「執務」はこなしたと報道。宮殿で催されたノルウェーやケニアなどの駐日大使夫妻との昼食会を欠席、徳仁が代理で出席。美智子と秋篠宮、紀子が加わる。

代替わり◆政府が翌年4月30日の明仁退位と翌5月1日の新天皇即位に伴う一連の儀式の準備作業を統括する事務局を8月初旬に発足させる方針を固め、関係府省庁間の調整役を担うトップには事務次官級を充てると、政府関係者が明らかに。

【7月5日】

明仁◆皇居・宮殿で、新任の外国大使から信任状を受け取る儀式に臨み、「公務」に本格的に復帰したと報道。宮殿・松の間で、セーシエルなど2カ国の新任駐日大使からそれぞれの国の元首の信任状を受け取る。御所に前仙台高裁長官らを招き、懇談。招かれたのは、退官した河合健司・前仙台高裁長官や青沼隆之・前名古屋高検検事長らと報道。

改憲◆憲法「改正」の国民投票に関する規定を公選法に合わせる国民投票法「改正」案について、衆院憲法審査会で提案理由を説明して審議入り。

【7月6日】

美智子◆東京都港区のサントリーホールを訪れ、日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会を鑑賞。

徳仁、愛子◆宮内庁東宮職の小田野展丈・東宮大夫が記者会見で、愛子が7月22日（8月9日、英国ロンドン郊外にある名門私立イートン校のサマースクールに参加する、と正式に発表。徳仁が月刊誌「山と溪谷」に、自ら登山中に撮影した長野県八ヶ岳連峰・天狗岳などの山の写真を寄稿したことも明らかに。

代替わり◆宮内庁が、明仁が退位後、美智子と共に仮住まいする東京都港区の高輪皇族邸（旧高松宮邸）の改修費が、2018年度当初予算に計上された8億4千万円より約3億円少ない、5億円台半ばにとどまる見通しになったと発表。「費用を極力節約したい」という明仁、美智子の意向に沿って、同庁が一部工事の見直しをしたもので、皇族邸の敷地内に予定していた運動や研究のための施設の建設計画を取りやめたと報道。

裕仁死去◆自民党の小淵優子・元経済産業相が、所属する竹下派の元議員が長野市で開いたセミナーに講師として出席し、父小淵恵三・元首相から聞いた1989年の昭和天皇死去の際の秘話を披露。当時、竹下内閣の官房長官だった元首相は死去の前夜、容体について宮内庁の侍医長から電話で「プロペラの羽根一枚一枚が見えるようになってきた」と説明を受けたという「飛行機が着陸するとプロペラの羽根が見えてくる。父は眠れず、（天皇は）翌朝に崩御された」。

眞子婚約◆米ニューヨークのフォーダム

大ロースクールが、秋篠の長女眞子との婚約が内定している小室圭が同ロースクールに8月から留学すると発表。計3年間学ぶことを希望しているという、奨学金制度を利用し、授業料は全額免除されると報道。

シベリア抑留◆厚生労働省が、「終戦」後に旧ソ連に抑留され、シベリア地域で死亡した13人の身元を新たに特定し、漢字氏名や出身地をホームページで公表。

死刑執行◆地下鉄、松本両サリン事件などオウム真理教による一連の事件で殺人などの罪に問われ、死刑が確定した松本智津夫・死刑囚Ⅱ麻原彰晃教祖ら7人の刑が、東京拘置所などで執行される。法務省が発表。

7月7日

明仁、美智子、徳仁◆宮内庁が、明仁、美智子が9〜10日に予定していた静岡県への「私的旅行」を取りやめると発表。

記録的な豪雨の影響で土砂崩れや水害が相次ぎ、各地で多数の死者や安否不明者が出ていること、自治体や警察が災害対応に追われていることを考慮したとし、8日に予定していた都内でのコンサート鑑賞も中止したと報道。宮内庁関係者によると、徳仁も8日にビオラ奏者として臨む予定だったコンサートへの出演を取りやめる。

「明治」文書◆「明治」改元から当年が150年に当たるとして、政府が「明治」時代の公文書が残っていないか調べたところ、約8600点が見つかったことが

分かる。

「明治150年」◆明治維新150年を記念し、大日本帝国憲法公布や日清・日露戦争など明治時代の重要な出来事を当時の新聞紙面で振り返る企画展「新聞が伝えた明治―近代日本の記録と記憶」が、横浜市中区のニュースパーク（日本新聞博物館）で始まる。

7月9日

明仁、美智子◆西日本豪雨を受け、宮内庁の河相周夫侍従長を通じ、岡山、広島、愛媛の各県知事に「見舞い」の気持ち伝え、災害対策に従事する関係者へのねぎらいを伝えたと報道。

徳仁、雅子◆宮内庁東宮職が、西日本を中心とした豪雨の影響により、徳仁が出席予定だった岡山県での第54回献血運動推進全国大会が中止になったため、11〜12日の同県訪問を取りやめると発表。雅子も体調が良ければ同行する予定だったと報道。

五輪記念貨幣◆独立行政法人造幣局（大阪）が、2020年の東京五輪・パラリンピックを記念した貨幣3種類を販売すると発表。1万円金貨は流鏑馬と「心技体」の文字をあしらひ、千円銀貨は2種類で、価格は金貨が12万円、銀貨が各9500円と報道。

7月12日

明仁、美智子◆皇居内にある養蚕施設で、野生のカイコと呼ばれる「天蚕」の繭を収穫する「収穫」の作業をする。5月から始まった美智子による養蚕作業が全て終了。収穫作業には例年、明仁が参加し

ていたが、当年で最後になるとして報道陣に公開される。

聖火リレー◆2020年東京五輪の聖火リレーで47都道府県を巡る順番と日程が決定。東日本大震災からの「復興五輪」を前面に打ち出し、東京電力福島第1原発事故など震災で甚大な被害を受けた福島県を同年3月26日にスタート、日本列島をおおむね時計回りに巡り、7月24日の開会式で東京・新国立競技場の聖火台に点火されるルートで、聖火リレーの総日数は移動日を含め121日と報道。

7月13日

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が西日本豪雨による甚大な被害を案じ、17〜20日に予定していた栃木県那須町の那須御用邸での静養を取りやめたと発表。日本赤十字社の近衛忠てる社長らに住まいの皇居・御所に招き、豪雨災害への同社の対応と、現地の被災状況の説明を受ける。

徳仁、雅子◆宮内庁が、徳仁が8月5日に兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕する第100回全国高校野球選手権大会の開会式に出席すると発表。同4日から1泊2日の日程で訪問し、雅子が体調に支障がなければ同行する予定と報道。

7月16日

彬子◆故寛仁の長女彬子が設立した団体「心游舎」（京都府）が14〜16日の日程で島根県出雲市の出雲大社で「キッズキャンプ」を開き、彬子が共同通信の取材に「子どもたちの心に日本文化の記憶の種をまき続けたい」と語ったと報道。

「慰安婦」問題◆旧日本軍の「従軍慰安婦」だった女性らの支援団体「韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）」が、別の団体と組織を統合し「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」との新しい名称で今後活動すると発表。

7月17日

徳仁◆東京都港区の森美術館で開催中の特別展「建築の日本展」を鑑賞。

眞子◆日本人移住110周年を祝う記念式典などに出席するため羽田発の民間機でブラジルに向かう。

代替わり◆立憲民主党が常任幹事会で、将来の皇室の在り方を検討する「安定的な皇位継承を考える会」（会長・海江田万里・元経済産業相）の設置を決める。

7月18日

眞子◆ブラジルへの日本人移住110周年を祝う記念式典などに出席するため、リオデジャネイロ着の民間機で同国入り。

7月19日

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が8月3〜5日、北海道を訪問すると発表。1869年に「北海道」と命名されてから、当年で150年目の節目だとして、札幌市で開かれる記念式典に出席し、滞在中に利尻島にも足を運ぶと報道。

眞子◆ブラジルのリオデジャネイロで日系人らの歓迎行事に出席し「両国の懸け橋となってきた努力に心より敬意を表します」とあいさつ。歓迎行事に先立ち、リオデジャネイロ植物園で日本庭園を見学。コルコバードの丘を訪れる。

「日の君」処分◆卒業式などで起立して

「君が代」を歌うよう指示した校長の職務命令に反したことを理由に、退職後の再雇用を拒否したのは違法として、東京都立高の元教諭22人が都に損害賠償を求めた訴訟の上告審判決で、最高裁第1小法

廷（山口厚・裁判長）が、賠償を命じた二審判決を破棄し、元教諭の請求を棄却。「再雇用の可否判断は任命権者の裁量にゆだねられている。不合格とした結論は合理性を欠いていない」。「職務命令違反は、式典の秩序や雰囲気損ない、生徒への影響も否定できない」。元教諭の逆転敗訴が確定。

朝鮮植民地支配◆南北交流を推進する韓国の民間団体「民族和解協力汎国民協議会（民和協）」が、北朝鮮側との間で、日本の植民地時代に徴用された朝鮮半島出身者の遺骨を日本から持ち帰る事業を南北共同で進めることで合意したと、訪朝していた民和協代表の金弘傑が帰途、北

京国際空港で記者団に明らかに。
〔7月20日〕

明仁、美智子◆東京都港区のサントリーホールで、ベトナム国立交響楽団の日本公演を鑑賞。公演終了後、出演者らと懇談。

眞子◆空路でブラジルのリオデジャネイロから南部パラナ州に移動。ロンドリーナの日系団体施設で地元の日系人らと交流。ロランジアのパラナ日本移民センターを訪問。

眞子婚約◆眞子と婚約が内定している小室圭が8月から留学する米国ニューヨークのフォーダム大ロースクールが、大学のホームページに掲載した小室の入学を

紹介する記事の中から「フィアンセ（婚約者）」の文字を削除したと報道。

代替わり◆立憲民主党が、将来の皇室の在り方を検討する「安定的な皇位継承を考える会」（会長・海江田万里・元経済産業相）の初会合を国会内で開く。課題となる皇族減少対策などについて年内にも論点を取りまとめ、党として一定の方向性を打ち出すことを確認。

侍従◆侍従の西野博之を総務省大臣官房企画官に、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構研究主幹の岩井一郎を侍従に起用する宮内庁人事が発表される。

東京五輪入場券◆2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が、五輪の入場券価格の概要を公表。開会式は1万2千円〜30万円、競技はサッカーなどでも最も安い2500円から、陸上競技で最も高い13万円。

IR法◆カジノを含む統合型リゾート施設（IR）整備法が成立。

〔7月21日〕

明仁、美智子、徳仁、雅子、愛子◆皇太子一家が、愛子の英国短期留学を前に、明仁、美智子にあいさつするため皇居・御所を訪問。これに先立ち愛子が、歴代天皇などを祭った皇居・宮中三殿を単独で参拝。

眞子◆ブラジル南部パラナ州マリナガの宿泊先のホテルで日系人らと懇談。日系企業などが主催する日本を紹介するイベントに参加。これに先立ち、日系団体の昼食会に出席。パラナ州知事と面会。

〔7月22日〕

愛子◆英国ロンドン郊外にある名門私立イートン校のサマースクールに参加するため羽田空港を出発。

眞子◆ブラジルの南部パラナ州からサンパウロに空路で入る。日本人の移住110周年を記念する式典に出席。開拓先没者慰霊碑を訪れ、献花。

〔7月23日〕

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が当週と翌週、西日本豪雨で甚大な被害が出た岡山、広島、愛媛3県の知事と皇居・御所で会い、被害状況について説明を受けると発表。2人の希望だとして、各知事が別の公務で上京する機会に合わせて御所に招くことにしたと報道。

眞子◆ブラジルで最大の日系社会があるサンパウロで、移民史料館を訪問。日本文化の発信拠点のジャパン・ハウスを視察。空路で移動し、移民がつくった町、サンパウロ州プロミッソンを訪問。

〔7月24日〕

眞子◆ブラジルのサンパウロ州カフェランジアで、約100年前に日本の移民らが集団で開拓した「平野植民地」を皇室として初めて訪問。マリリアで死亡した犠牲者の碑に献花。サンパウロ大の動物学博物館を視察。北部アマゾナス州マナウスに空路で移動。パラ州トメアスなどを訪れる。

代替わり◆政府が2019年4月30日の明仁退位と翌5月1日の新天皇即位に伴う一連の儀式の準備作業を統括する「皇位継承式典事務局」を翌月1日に設置す

ると、菅義偉・官房長官が記者会見で発表。

トップの事務局長は事務次官級ポストとし、閣議で、皇位継承式典事務局長に総務省自治行政局長の山崎重孝を充てる人事を決める。発令は8月1日付で、事務局長以下、26人の専従職員を配置する予定と報道。

「慰安婦」問題◆韓国女性家族省が、「従軍慰安婦」問題の日韓合意に基づき日本が拠出した10億円を韓国政府の予算で置き換えるため、相当額の予備費を計上する案が、閣議で承認されたと発表。10億円を日本に返すべきだとの一部元「慰安婦」らの主張を踏まえ、韓国政府が同額を自国予算で拠出、日本拠出分を凍結する方針を既に示していたもので、女性家族省は、予備費をどう執行するかは日本政府などと協議して決めるとしている

と報道。
〔7月25日〕

明仁、美智子◆西日本豪雨で大きな被害が出た愛媛県の中村時広知事を皇居・御所に招き、被害状況について説明を受ける。中村知事が終了後、報道陣の取材に応じ、2人から「暑さに負けずにがんばってください」と励まされたと明かす。東京都港区の国立新美術館で開催中の書道展を鑑賞。

佳子◆静岡県御殿場市で開かれた全日本高校馬術競技大会の開会式に出席し、冒頭のあいさつで西日本豪雨に触れ「被災地の復旧が速やかに進むことを願っております」。

〔7月26日〕

秋篠宮◆西日本豪雨で甚大な被害を受けた広島県を「私的」に訪問。宮内庁幹部によると、被災者を受け入れている同県坂町の病院を視察。近くの避難所で、医師による健康相談の様子を見て回る。

在朝被爆者◆原水爆禁止広島県協議会が広島市役所で記者会見を開き、2008年に確認された在北朝鮮被爆者382人のうち、1割超に当たる少なくとも51人が死亡していたと明らかに。現地の被爆者団体が調査し、中間報告を7月中旬に聞き取ったもので、会見に同席した広島県朝鮮人被爆者協議会の金鎮湖・理事長「在朝被爆者は年々減少している。朝日関係は現在停滞しているが、人道的な支援をしてほしい」。

死刑執行◆地下鉄、松本両サリン事件などオウム真理教による事件に関わったと



女性と天皇制研究会学習会 天皇制から続く家制度

七月一二日、文京区民センター。五月一七日の学習会「眞子、結婚、延期と憲法二四一条なぜスキヤンダルになるのか」(Alet二四号参照)の続編。発題は近藤和子さん。

近藤さんは冒頭、七月六日の七人一斉死刑執行に触れ、それが大逆事件(二一人)以来の大量処刑であることと、それを指

して、殺人罪などに問われ、死刑が確定した教団元幹部ら6人の刑が執行される。法務省が発表。上川陽子法相が2日前の24日に命じたもので、教団による事件で死刑が確定した13人全員の執行が終わったと報道。

【7月27日】

日韓関係◆河野太郎外相が記者会見で、日本と韓国の未来志向の関係を旨指すとした「日韓共同宣言」の発表から10月で20年を迎えるのを踏まえ、日韓間の文化、人的交流の拡大に向けた方策を議論する有識者会合を設置すると正式発表。会合設置には、歴史認識を巡る対立に焦点が当たるとの避け、関係改善を後押しする狙い。

【7月28日】

「平成」◆1989年1月7日の昭和天示した上川法相が処刑前日に飲み会(「赤坂自民亭」)で盛り上がったことを指摘された。以下、当日レジュメに沿って述べる。

一、「天皇と「家」制度」：「家」制度は十一世紀、白河天皇が自分の子どもに皇位を継がせようとしたところから始まった(五味文彦『中世社会のはじまり』岩波文庫)。

二、戦後の「家」制度廃止の試み(GHQ主導、二〇一〇年日本会議夫婦別姓反対運動方針)。

皇死去の約3カ月前、当時の竹下登首相と小渕恵三・官房長官(いずれも故人)に新元号の最終候補として「平成」を含む3案が初めて報告されていたことが分かったと報道。

【7月30日】

徳仁、雅子◆沖縄県や北海道函館市から訪れた小中学生約60人の「豆記者」たちを、東京・元赤坂にある東宮御所に招き、懇談。秋篠宮、紀子、悠仁◆東京都千代田区にある戦傷病者史料館「しゅうけい館」を訪れ、太平洋戦争などの戦傷病者ゆかりの展示を見学。悠仁の夏休みに伴う「私的な訪問と報道」。

東宮侍従◆東宮侍従川笠亮が30日付で依願退官する宮内庁人事が発表される。

【7月31日】

徳仁、雅子◆徳仁が、全国高校総合体育

税制などの施策。家の女性が介護を担う「日本型福祉社会」の提唱。六、女子差別撤廃条約。七、男女雇用機会均等法：男女平等を絶対に認めない経営側、骨抜き法案に。八、日本は単身社会へ：厚労省のモデル世帯はもはや幻。九、皇族は減少、どうなる天皇制。

会場からは、現実とモデルの乖離が進む一方、家族規範のようなものはむしろ強まっているのではないかと、都会では單身世帯が増えているかもしれないが第一次産業はいまだに家族経営でないと成り立たない現状にある、等さまざまな意見が出た。個人的には「家庭基盤の充実」(若き日の原ひろ子や小堀桂一郎、米山

大会の総合開会式出席などのため、JR東京駅を出発、三重県入り。伊勢市にある伊勢神宮の外宮と内宮を参拝。雅子は同行しなかったと報道。

眞子◆成田空港着の民間機で帰国。

新天皇即位日◆熊本県水保市などが、水俣病の公式確認から63年となる翌年5月1日に予定していた犠牲者慰霊式を、同10月19日に延期することを決める。新天皇の即位日と重なるため、翌年は春に統一地方選があるほか、夏の酷暑を避けるため、秋に行くことになったと報道。

東宮侍従◆国土交通省都市局総務課国際室長の石川亨を東宮侍従に起用する宮内庁人事が発表される。

俊直が委員に!)が興味深く、その後の施策や規範意識の形成がこのとおりに進んでいることに恐ろしさを覚えた。裕仁という明仁といい、家存続に必死のあまり、土地や人を外国の軍隊に売り渡したり、法律を捻じ曲げたり何でもするわけで、そういう意味ではまさに、「天皇制から続く家制度」だなあと思った。

(女天研/松井きみ子)

なぜ元号はいらないのか?

七月二一日、文京区民センターにおいて、「なぜ元号はいらないのか? 7・21集会」が九七人の参加を得てもたれた。

主催は、このかん、天皇「代替わり」に反対する行動を共同でつくっている首都圏枠のグループによって作られた「元号はいらない署名運動」。もちろん反天連も呼びかけ団体のひとつだ。

天皇の「二重権威」などというくだらない議論もからだ「新元号」への移行をめぐるドタバタは、元号というものの不便・不合理さをあぶりだしている。同時に、にも関わらず、それをやめようという声を表面化させることのない、天皇制社会のありようをも。そうしたなかで取り組まれた署名は、すでに目標数の五〇〇〇筆を超えている。その報告も含めて、元号いらないという声をはっきりと上げていこうという趣旨の集会だった。

主催者あいさつに続いて、中国近代思想史を専門とする坂元ひろ子さん（一橋大学名誉教授）から、「中国の革命経験から考えるアジアの共和国」と題して講演を受けた。坂元さんは、「心身に絡みつくように私たちを縛っている」（安丸良夫）天皇制を問題にすべきであると話を始めた。「元号制度」は、それが中国古典に典拠を持つ言葉で作られることに明らかにように、古代以来の対中国コンプレックスが骨がらみになった制度である。中国においては「天」の観念と易姓革命の思想があったのに対して、日本においてはそのコンプレックスを解消するために、「万世一系」が強調されたことを指摘した。そして、清末民初の改良・革命思想における「共和」論議について詳しく紹介された。

続いて、靖国・天皇制問題情報センターの中川信明さんから、これまでの反元号の取り組みについての報告、前立川市議の大沢豊さんから、二三区二六市の文書における元号および西暦使用の現状、新元号のためのシステム改修の費用などについての調査報告がなされた。

茨城・戦時下の現在を考える講座、「オリンピック災害」おことわり連絡会、アジア女性資料センター、あいち代替わり・植樹祭を考える会（仮）のアピール、今後の行動提起で集会は閉じられた。

この集会については、後日朝日新聞でも記事になった。反対する声の存在が取り上げられたのはよいとしても、署名運動について言及されず、なんのための集会なのか不明。しかも「平成流」によって、右も左も苦勞し、反対運動も退潮しているという論調。そうではない。集会で中川さんも強調したように、「代替わり」改元を目前にして、「元号反対運動の三つのピーク」に向けた、具体的な取り組みが始まっているのだ。秋にかけてさらに署名を集め、反元号の声をさらに広げていこう。

（反天連／北野誓）

2020東京オリンピックいらない！原宿アピール&渋谷デモ

2020東京オリ・パラ反対！のアピール&渋谷デモを猛烈な酷暑の中やりきった。様々な問題を列挙するアピールを聞く。トップはスポーツジャーナリス

ト谷口源太郎さん。放送権料等一兆円を超える「興行」の実態を暴露、興行を優先した真夏の開催は選手から離れた「マネーファースト」。一九二五年生まれ、一九三二年ロサンゼルス五輪をラジオで聴いた北村小夜さんは道徳や愛国心教育と結びついたオリ・パラの問題点を。東京都オリパラ教育を監視・批判する仲間からの報告も。

鶴飼哲さんは一九五二年の「主権回復」とヘルシンキ五輪、一九六四年の東京五輪でのヒロヒトの開会宣言等をあげ、二〇二〇年は新天皇の世界へのお披露目になること、ナチスの台頭した一九三六年ベルリン五輪と極めて相似した五輪になると警告。いち早く五輪の問題に取り組んできたアツミマサミさん。小池都知事の「人権尊重」がいかに茶番であるかを具体的に指摘、明治公園の野宿者追い出し等を国賠で闘う反五輪の会首藤さんからも。二〇一一年三・11の震災で宮城県気仙沼に住んでいたお父さんを亡くされた木村さんは福島原発事故が終わっていない中で「復興五輪」をでっち上げることに対する怒りを語った。

武器輸出反対ネットワークの杉原さんは八月末に川崎で開催予定のイスラエル軍事エキスポ中止を求める取り組みへの呼びかけ、おことわりリンクの八畝さんからもサイバートロを口実として人権破壊のショーケースとして五輪を利用するイスラエルに対する批判。この日お目見えリーフレットの中面ハザードマップ製作者の大槻さんから、東京自体が放射能の

被災地であるリアルな現実が突きつけられた。

でもって、デモ。「ホントに死ぬぞ、東京五輪」とこれまたリアルなコールで原宿から渋谷の繁華街を歩いた。注目度抜群。リーフはバージョンアップしながら引き続き配布する予定だ。おことわりリンク、これからは本番です！

（おことわりリンク／京極紀子）

死刑執行に抗議する集会

上川陽子法務大臣の一人の死刑執行を糾弾する集会が文京区民センターで行われた。参加者は三〇〇名、多くの人が大量処刑に衝撃を受けている。テレビカメラも入り報道陣も多い。

集会はフォーラムの安田好弘弁護士から、松本智津夫さんの執行阻止のために再審、恩赦、人身保護請求などあらゆる手を尽くしたことが話された。そして大逆事件の二人死刑執行と比較し、死刑をめぐる状況が一〇〇年以上逆転したと語った。

続いて端本悟さん、新實智光さん、遠藤誠一さん、林（小池）泰男さん、井上嘉浩さんの弁護士からそれぞれの人物像と再審の動きが話され、豊田亨さん、中川智正さん、横山正人さんの弁護士や支援者からのアピールが朗読された。また宮前一明さんの絵画作品が会場に展示され、執行された日に投函された彼のアンケートの一部が読み上げられた。オウム事件死刑囚それぞれの実像と再審の状況

が語られたのは初めてである。

昨年、再審請求中の三名が執行された。今回、二度に分けて執行された一三名中一〇名が再審請求中でありそのうち五名が一度目の請求だった。再審とは裁判の過ちを正す制度だ。しかし今年二月に、誤判の可能性が高いにも関わらず執行された飯塚事件の久間三千年さんの死後再審が福岡高裁で認められず、六月一日には静岡地裁で再審開始が決定した袴田巖さんの再審取消を東京高裁が決定した。つまり死刑事件は再審せずの宣言だ。一度死刑が確定すると誤判であっても正されないのだ。そして一度目の再審の結果も出てないのに処刑する。同一事件同時執行の原則を破り「首謀者」たちをまず吊し、二〇日間で一三人も執行する。確定順を五〇人も飛び越して執行する。この国は執行の公正さを一切考慮せず、恣意的に執行できる体制を作り出したのだ。法務省が積み重ねてきた死刑執行の慣例を全て無視した今回の執行は、死刑をさらに為政者が自由に使える政治的な道具に作り替えた。あらゆる手段でこの流れを変えていかねばならない。

(死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90／深田卓)

「天皇制では、国民を作るが市民は育たない!」

七月二八日に盛岡で「天皇制について話そう! 天皇は昔は神様、今はアイドル?」と題して、桜井大子さんを講師に

迎え学習会を行いました。地元紙「岩手日報」のお知らせ欄に掲載されたこともあり、参加者はいつもより多めの二四名でした。

★天皇とは何者か。★なぜ天皇は特別な存在、タブーであるのか。それは正当であるのか。★天皇の宗教行為。★なぜなくならないのか。以上の四点を軸にした豊富で深い講師のお話の後、質問や参加者の意見も交え、三時間じつくりと天皇制と向き合いました。

後半で出された意見は★太平洋戦争によってアジアでは二十万人以上、国内では三百万人以上の命が奪われた、これに対する責任は天皇にある。それは「天皇」災と呼べるのではないか。★日本人は支配されることに慣れすぎているのではないか。★安倍政権がこれだけの不祥事を重ねているにもかかわらず支持率は下がらずにむしろ上がっているという現状をどう考えればよいのだろうか。この根っこにも天皇制がある。★敗戦まで叩き込まれた天皇観や中国人への差別感などをなかなか変えられない。人の心はなかなか変わらないということ。★「個」のない日本の社会に必要なことは、天皇制に限らず「自己・個」を育てること。★たった一六名の皇族のために莫大な血税が使われていることに憤りを覚える。

★天皇制は日常生活に形や形式を通して入り込んでいて、強制ではないと言いがらその力は強くなっている。などなどでした。

天皇制が生活の隅々にまで入り込み私たちを縛っているのにそれに全く無自覚になっていて、それが天皇制を支えているのだと改めて認識できました。「天皇制は、国民は育てるが市民を育てない」という発言が戦争を体験した人から出されましたが、全く本質を突いた言葉だと思います。

私たちは市民として自覚して生きていくためにも天皇制にこだわら続け、盛岡で今後も天皇制についての学習会を続けていきます。

(右手からアジアを考える会／村松信子)

反「昭和」Xデー闘争の「経験」を通して、「平成」代替わりを考えようPart2

七月二九日、午後三時からピープルズプラン研究所で、「『平成』代替りの政治を問う」連続講座の第六回「反「昭和」Xデー闘争の「経験」を通して、「平成」代替わりを考えるPart2」が開催された。参加者は約一八人。

今回は、天野恵一さんが司会をし、加藤克子さん（立川自衛隊監視テント村）と高橋寿臣さん（反天皇制運動連絡会OB）と中川信明さん（靖国・天皇制問題情報センター）が問題提起をするという形で行われた。

まず加藤さんが、二〇一七年一月のテント村の宣伝車に対する右翼の襲撃から、時代を遡り、七二年のテント村結成や「反軍放送局」の活動、「天皇在位五〇周年典式批判」八三年の「昭和記念公園」

開園式典に伴う弾圧、八八年の「天皇葬儀」に反対する八王子デモや九〇年の「即位の礼」大嘗祭」に反対する集会などについて述べられた。

次に高橋さんが、ご自身の一九七〇年前後の運動経験から九〇年の「即位」諸儀式反対運動等の反Xデー闘争に至るまでの経緯や、今回の「平成」代替わり反対行動の困難性について述べられた。

次に、中川さんが、「靖国・天皇制問題情報センター」の活動を通じて、「即位の礼・大嘗祭」に反対する運動等での市民運動と教会の橋渡しとなった経験や、「天皇代替わり」を知らない世代に、いかに経験を継承するか?といった問題意識から「三〇年前の（経験）を通して、「平成」の代替わりを考える」という題で話をされた。

天野さんからは、「なぜ全共闘の世代は、天皇制の問題を大きな問題として考えて来なかったのか」という自身の問題意識から出発して、反天皇制運動を始めたこととで戦中派の学徒世代の人々を含め様々な世代の人々と交流することができたことや、かつての反Xデーの時期に天皇や天皇制に対するパロディという表現方法が噴出するように広まったことなどを話された。

問題提起後の質疑応答を含め講座は三時間に及び、今回も熱の入ったものとなった。

(講座運営委／田中)

ハタ天日誌

7月6日(水) ● 原発被ばく労災あらかぶさん国賠訴訟第8回口頭弁論

7月12日(木) ● 女性と天皇制研究会・学習会(集会の真相参照)

7月14日(土) ● 再考「1968」・II 政治的暴力をめぐって

7月21日(土) ● なぜ元号はいらないのか? (集会の真相参照)

7月22日(日) ● 2020東京オリンピックくいらな! 原宿アピール&渋谷デモ(集会の真相参照)

7月23日(月) ● 警視庁機動隊沖繩への派遣は違法 第8回口頭弁論

7月25日(水) ● 8月土砂投入ストップ! 首都圏集会

7月27日(金) ● 東京都総合防災訓練 対前段集会(ネットワーク参照)

● 死刑執行に抗議する集会(集会の真相参照)

7月28日(土) ● 天皇制について話そう 天皇は昔は神様、今はアイドル? (集会の真相参照)

7月29日(日) ● 「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第6回 「反「昭和」Xデー闘争の(経験)を通して、「平成」の代替わりを考える Part 2 (集会の真相参照)

集会情報 INFORMATION

開催中 2019年2月17日 ● 日本人「慰安婦」の沈黙

13時~18時(月・火・休日休館) / W

【学習会報告】

千葉慶『アマテラスと天皇』

(吉川弘文館 歴史文化ライブラリー、二〇一)

〈政治シンボル〉の近代史

日本の近代化の過程でつくり出された「政治シンボル」が、明治維新政府の思惑からどのような変遷をたどり、悲惨な敗戦を迎えるにいたったのか。本書ではその歴史的な考察を試みられる。そして、その政治シンボルを検証しなおすためのケーススタディとして、アマテラスが取り上げられている。

近代国家建設Ⅱ脱亜入欧・欧米型列強国化が目的であったこの国の近代化は、

AM・女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅ほか) / 連絡先・同館 (033024633)

8月11日(土) ● 埋めるな! 辺野古 沖縄県民大会に呼応する首都圏大行動

11時30分集合・12時30分デモ出発 / 東池袋中央公園(JR池袋駅ほか) / 主催・同実行委員会(連絡先 0903910410 沖繩・一坪反戦地主会関東ブロック)

● 平和の灯を! ヤスクニの闇へ 第13回 2018キャンドル行動

13時~19時デモ出発 / 在日本韓国YMCAスペースY(JR水道橋駅ほか) / 高橋哲哉、吉田裕、権赫泰、内海愛子 / 主催・平和の灯を! ヤスクニの闇へ キャンドル行動実行委員会

● 日本帝国主義一五〇年を沖繩から問う

14時~17時デモ / つくば市立吾妻交流センター(TXつくば駅前) / 湖南通 / 主催・戦時下の現在を考える講座

も、よく読み取れるテキストとなっている。

議論は沸騰した。政治シンボルの近代史に絞り込んだユニークな視点とその論理展開は、私たちを面白がらせた。同時に、アマテラスが政治シンボルとして使われていく経緯等について、本当にそうであったのか?との疑問を付す意見も。私も同様に感じることはあった。

それにしても、一九三〇年代の敗戦あたり、思わず現在と比較しながら読んでしまうのだが、「象徴天皇もアマテラスと同じ政治シンボルの一種であり、政治シンボルとは有効かつ強力であればあるほど、統治者・被治者双方にとってリス

(03355284 四谷総合法律事務所)

● C1ジェット飛来抗議デモ 14時30分集合・14時45分デモ出発 / 諏訪の森公園南側集合(JR立川駅南口) / 主催・立川自衛隊監視テント村 (0425259086)

8月12日(日) ● 金学順さんから始まった

8月12日(日) ● 金学順さんから始まった

14時~ / 文京区民センター2A(地下鉄春日駅ほか) / 川田文子、角田由紀子、梁澄子 / 共催・戦時性暴力問題連絡協議会 / 日本軍「慰安婦」問題解決全国行動 (09060205677)

● 日本帝国主義一五〇年を沖繩から問う

14時~17時デモ / つくば市立吾妻交流センター(TXつくば駅前) / 湖南通 / 主催・戦時下の現在を考える講座

「キー」という著者の結論は、暗示的である。

絶大な権威をもって民衆に受け入れられ、解釈に曖昧さを残さず……、かつ専制政治に陥らない工夫をこらした政治シンボル。象徴天皇制、いい線いってること……?

というわけで、もう少し関連領域を読むことに。

今回はトメ吉さん推薦のテキストで、ついでに参加も。また来て下さいまし。

◎次回は、村上重良『天皇制国家と宗教』(講談社学術文庫、日本評論社)

(桜井大子)

(090-8441-1457 加藤)

8月15日(水) ●「明治150年」天皇制と近代植民地主義を考える8・15行動

14時開場・集会后デモ／在日本韓国YMCA・9F(ＪＲ水道橋駅ほか)／主催：同実行委員会(03-3380-0933)

8月24日(金) ●学習会 憲法と天皇制

18時30分／練馬区厚生文化会館(西武池袋線ほか練馬駅)／清水雅彦／主催：アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える・練馬の会(090-5285-5803 池田)

8月25日(土) ●連続講座 安倍改憲と憲法9条第1回 9条解釈の政治史と日米安保

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅ほか)／清水雅彦、武藤一羊／主催：ピープルズ・プラン研究所(03-6324-5748)

8月28日(火) ●スポーツの軍事化とオリンピックの政治

18時15分開場／渋谷男女平等・ダイバーシティセンター(アイリス)(ＪＲ渋谷駅)／井谷聡子、北村小夜／共催：アジア女性資料センター、反五輪の会(03-3780-5245)

9月1日(土) ●関東大震災で虐殺された朝鮮人虐殺追悼式

10時／横網町公園(ＪＲ両国駅)／主催：日朝協会

9月2日(日) ●シビル連続講座 未来からの透視—ロシア革命百年 第3回

14時／柴中会公会堂(ＪＲ立川駅)／太田昌国／主催：シビル(042-524-9014)

9月4日(火) ●明治公園オリンピック追出しを許さない国賠訴訟 第2回口頭弁論

15時30分開廷・東京地方裁判所706号法廷(地下鉄霞ヶ関駅)

9月8日(土) ●オリンピックは誰のため?何のため? 過去の映像が私たちに語りかけること 第1回

12時30分開場・13時開始／武蔵大学8号館6F(西武池袋線古田駅ほか)／永田浩三、谷口源太郎、天野恵一／主催：「オリンピック災害」おことわり連絡会(080-5052-0270)

●全都反弾圧集会

16時・大久保地域センター(地下鉄東新宿駅ほか)／集会後、渋谷に移動してデモ／主催：同闘争実行委員会

9月11日(火) ●持つな!「敵基地攻撃力」学習討論集会

18時開場・18時30分開場／文京区民センター3B(地下鉄春日駅ほか)／吉沢弘志、木元茂夫、横山哲也／主催：大軍拡・基地強化NO!アクション2018(03-3901-0212 北部労働者法法律センター)

9月13日(木) ●原発被ばく労災あらがぶさん国賠訴訟第9回口頭弁論

14時開廷・東京地方裁判所103号法廷(地下鉄霞ヶ関駅)

9月15日(日) ●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第7回 東京オリンピックと「生前退位」

14時30分開場・15時開始／ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅)

ほか)／小倉利丸、宮崎俊郎、天野恵一／主催：ピープルズ・プラン研究所(03-6324-5748)

9月16日(日) ●オリンピックは誰のため?何のため? 過去の映像が私たちに語りかけること 第2回

12時30分開場・13時開始／武蔵大学1号館地下(西武池袋線古田駅ほか)／永田浩三、谷口源太郎、天野恵一／主催：「オリンピック災害」おことわり連絡会(080-5052-0270)

9月18日(火) ●大軍拡・基地強化NO!アクション2018・防衛省申し入れ行動

18時30分防衛省前集合／主催：同アクション(03-3901-0212 北部労働者法律センター)

9月27日(木) ●天皇代替わりと民主主義の危機

18時開場・18時30分開場／エルおおさか南館ホール(地下鉄京阪天満橋駅)／横田耕一／主催：天皇代替わりに異議あり!関西連絡会(090-5166-1251 寺田)

9月29日(土) ●立川「防災航空祭」反対デモ

10時30分集合・11時デモ出発／立川憩いの場(ＪＲ立川駅北口)／主催：立川自衛隊監視テント村(042-525-9036)

9月30日(日) ●「慰安婦」被害はどう聞き取られてきたか

13時開場・13時30分開場／在日本韓国YMCA9F(ＪＲ水道橋駅ほか)／梁鉉娥、川田文子、小野沢あかね、大

門正克、金富子／主催：VAWWRA
C(連絡先：03-3618-5903)

〇……神田川

●久しぶりの増ページ。忙しかったはずだわ。でも、まだまだこれから…。でもニュースはあと一息、ガンバ(木菟)●ページが増える、作業が増える、赤字も増える、酒量も増える、人は増えない。でも、やり甲斐はあるよね。(猿)●ページが増えてちょっとだけ厚い。外に出るともちろん暑い。「コロロが熱いか」といつと眠くてぐにやり(蝙蝠)●暑いあついアツイあつい、マジやばいよ、これは。8・15のデモ、くれぐれも気をつけて!!! (黒貂)

カンパ・購読料 ありがとうございます。

前号で、泣きのカンパと購読料入金のお願いを同封いたしました。少しずつ口座が暖まっています。ありがとうございます。ニュースの発行・発送は、購読料とカンパ、事務局の会費だけで何とかやりくりしています。どうか、今後ともよろしく願います。

